

イランへの軍事攻撃の即時停止と中東地域における平和的解決を求める決議

アメリカおよびイスラエルは2月28日、イランに対する大規模な軍事攻撃を開始し、イランの最高指導者を含む政府・軍関係者を殺害した。そして、その後の軍事行動で、学校、病院、一般住宅、世界遺産であるゴレスタン宮殿などが被害を受け、多数の無辜（むこ）の民間人が犠牲となっている。

きわめて重大なことは、トランプ米国大統領が、イラン政権を「巨大なテロ組織」と決めつけ、「大規模かつ継続的な作戦」を実施する、「イランの海軍を壊滅させる」と宣言し、イラン国民に対して、体制転覆を公然と呼びかけていることである。

いかなる理由があつたとしても、武力による一方的な攻撃で、独立した主権国家の最高指導者を殺害する権限は、トランプ米国大統領に与えられていない。この主権国家の体制転覆を目的とした先制攻撃は、戦後の国際秩序そのものを破壊する暴挙であり、国際社会では断じて許されない蛮行である。

また、イランによる報復攻撃も湾岸諸国に拡大しており、アメリカおよびイスラエルがこの無法な軍事行動を継続するならば、報復の連鎖と武力衝突の拡大は避けられない。中東地域のみならず世界全体の平和と安定を根底から揺るがす深刻な事態を招くことは、絶対に阻止しなければならない。

特に、エネルギー資源の多くを同地域に依存する我が国にとって、ホルムズ海峡の緊張激化や原油価格の急騰は、国民生活および経済活動に極めて深刻な影響を及ぼす重大問題である。さらに、在沖・在日米軍の中東派遣は、沖縄と日本を無法な戦争の出撃拠点にするものであり、平和的解決を求める立場から容認できない。

かつて沖縄は凄惨な地上戦を経験し、約20万人が犠牲となり、県民の4人に1人が尊い命を失った。それを踏まえ、本市議会は昨年6月、「戦後80年 那覇市議会 平和宣言」を全会一致で採択した。そして、私たちは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認し、その実現を強く願い、「沖縄のこころ」「命どう宝（ぬちどうたから）」を世界に発信し、恒久平和の実現に向け、あらゆる努力を惜しまないことを固く誓った。

よって、那覇市議会は、この「平和宣言」の立場から関係各国に対し、イランへの軍事攻撃の即時停止と中東地域における平和的解決を求める。

以上、決議する。

令和8年（2026年）3月17日

那覇市議会

あて先：国際連合事務総長 駐日米国大使 駐日イスラエル大使 駐日イラン大使